# 令和5年度 第1回

## 横手市クリーンプラザよこて環境保全委員会

## 次 第

日時:令和6年3月21日(木) 午後3時~4時30分頃

場所 : クリーンプラザよこて 2階研修室

1.	開会	
2.	あいさつ	
3.	議事録署名委員の指名	
4.	協議 1)クリーンプラザよこて運営状況について	•••••資料1
	2)クリーンプラザよこて周辺環境調査結果について	••••••資料2
	報告案件 1)ペット・プラ施設整備について	•••••資料3
5.	その他	

6. 閉会

## 1)クリーンプラザよこて運営状況について

出典元:株式会社よこてEサービス

## 1 環境モニタリング結果

令和5年度の環境モニタリングの期間内における測定の結果は、 すべての項目において、 法規制値及び保証値を下回り、適正であることを確認している。

## (1)排ガス測定

		測定の結果							
測定の位置	月	ばいじん	窒素酸化物	塩化水素	硫黄酸化物	一酸化炭素	水銀		
		$(g/m^3N)$	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	$(\mu  \text{g/m}^3)$		
	4月	< 0.001	54	24	15.0	4	1.50		
	5月	1	_	_	10.0		_		
排ガス	7月	< 0.001	56	22	15.0	4	7.50		
(1号炉)	10月	< 0.001	43	22	13.0	2	1.90		
	1月	< 0.001	40	18	11.0	2	0.55		
	2月	測定中							
	4月	< 0.001	54	26	15.0	14	0.93		
	5月	-	_	_	8.5		_		
排ガス	7月	< 0.001	53	26	16.0	1	7.00		
(2号炉)	10月	< 0.001	54	25	15.0	1	1.00		
	1月	< 0.001	48	15	9.2	1	0.72		
	2月			測気	包中				
判定		適正	適正	適正	適正	適正	適正		
基準値(保	証値)	0.007	80	50	30	20	_		
基準値(法規	制値)	0.15	250	430	約6,000	100	50		

<sup>※</sup>ばいじん濃度、窒素酸化物、塩化水素についての結果は酸素濃度12%換算値

#### ※参考(単位解説)

g/m<sup>3</sup>(グラムパー立法メートル)

1立法メートル当たりに含まれる量(密度)

ppm(ピーピーエム)

百万分のいくつであるかを表す語。濃度や成分比の単位。百万分率。

 $\mu g/m^3$  (マイクログラムパー立法メートル)

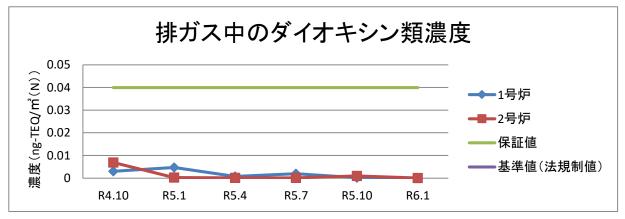
1立法メートル当たりに含まれる量(密度)、マイクログラムは1グラムの100万分の1。

<sup>※</sup>一酸化炭素は4時間平均値

<sup>※&</sup>quot;一"は、法的資格を有する第三者機関による測定をしないことを示す。

## (2)排ガス中のダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)

	R4.10	R5.1	R5.4	R5.7	R5.10	R6.1
1号炉	0.003	0.0047	0.0007	0.0019	0.00017	0.000052
2号炉	0.0069	0.00025	0.00011	0.00007	0.00091	0.00005
判定	適正	適正	適正	適正	適正	_
保証値	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
基準値(法規制値)	5	5	5	5	5	5



#### ※参考(単位解説)

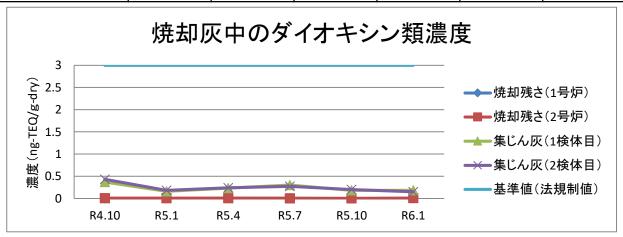
ng-TEQ/m<sup>2</sup>:ナノグラム ティーイーキュー パー 立法メートル

1立法メートル当たりに含まれる量(密度)、ナノグラム=1グラムの10億分の1

TEQ=毒性等量。ダイオキシン類は複数の種類があり、量で比較すると危険度が把握できないことから、最も毒性が強い2, 3, 7, 8-TCDDの毒性に換算して比較するための単位。

## (3) 焼却灰中のダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/g-dry)

		112112				
	R4.10	R5.1	R5.4	R5.7	R5.10	R6.1
焼却残さ(1号炉)	0.00091	0.0026	0.0072	0.0027	0.00058	0.003
焼却残さ(2号炉)	0.0027	0.0052	0.0039	0.0011	0.0023	0.007
集じん灰(1検体目)	0.37	0.16	0.23	0.30	0.18	0.18
集じん灰(2検体目)	0.43	0.18	0.24	0.27	0.20	0.15
判定	適正	適正	適正	適正	適正	適正
基準値(法規制値)	3	3	3	3	3	3



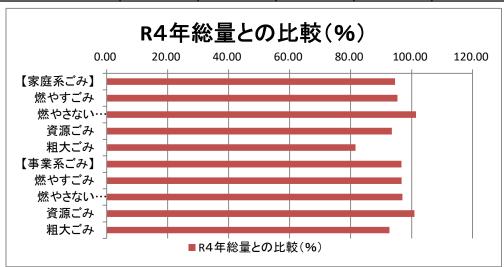
## ※参考(単位解説)

ng-TEQ/g-dry:ナノグラム ティーイーキュー パー グラム ドライ 乾燥させた1グラムの試料に含まれる量(密度)、ナノグラム=1グラムの10億分の1

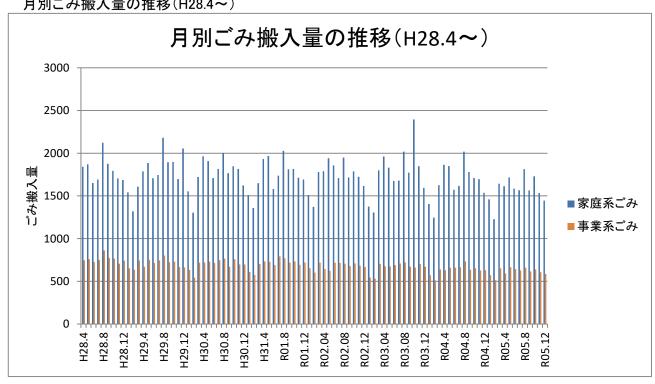
### 2 令和5年度の運転実績

## (1)ごみ搬入量

	R2総量(t)	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量見込(t)	R4年総量 との比較
【ごみ搬入量】	28,491.41	28,291.17	27,596.25	26,260.37	95.16
【家庭系ごみ】	20,569.53	20,398.47	19,974.96	18,894.70	94.59
燃やすごみ	15,911.71	15,763.88	15,490.45	14,776.84	95.39
燃やさないごみ	213.29	198.57	205.37	208.31	101.43
資源ごみ	3,640.62	3,580.05	3,495.49	3,270.11	93.55
粗大ごみ	803.91	855.97	783.65	639.44	81.60
【事業系ごみ】	7,921.88	7,892.70	7,621.29	7,365.67	96.65
燃やすごみ	7,631.52	7,568.00	7,290.17	7,051.50	96.73
燃やさないごみ	4.50	4.34	4.34	4.21	97.00
資源ごみ	83.72	92.34	83.87	84.62	100.89
粗大ごみ	202.14	228.02	242.91	225.34	92.77



月別ごみ搬入量の推移(H28.4~)



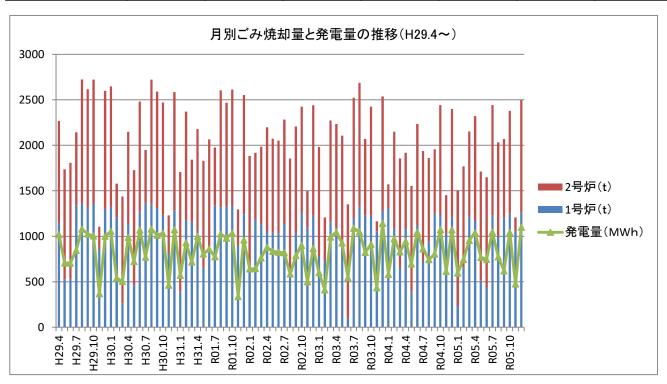
## (2)焼却量及び発電量

焼却炉の定期整備のため焼却炉を停止した時期には、焼却量及び発電電力量が低下している。

## 焼却量及び発電量

	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5上半期
1号炉(t)	1,170.16	514.46	439.77	1,229.16	996.61	1,198.10	5,548.26
2号炉(t)	1,150.60	1,197.95	1,208.29	1,211.96	1,034.96	869.36	6,673.12
発電量(MWh)	1,041.20	768.71	744.08	1,045.03	772.30	620.73	4,992.05

	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R5下半期
1号炉(t)	1,247.45	1,057.08	1,257.56				3,562.09
2号炉(t)	1,131.42	149.91	1,240.35				2,521.68
発電量(MWh)	1,042.59	476.18	1,099.38				2,618.15



## ※参考(単位解説)

MWh:メガワットアワー

1時間当たりの発電量を表す単位(1時間当たりに使う電力量も同じ単位を使用)。

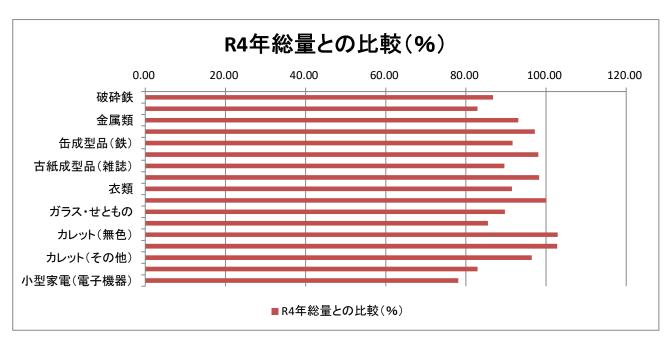
1メガワットは、1,000キロワット。

## 3 資源物等の搬出量

## (1)資源物搬出量

	R2総量(t)	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量見込(t)	R4年総量と の比較(%)
破砕鉄	187.47	188.50	173.29	150.38	86.78
破砕アルミ	18.03	17.83	15.35	12.73	82.93
金属類	253.13	255.73	232.32	216.28	93.10
缶成型品(アルミ)	155.99	156.14	147.53	143.46	97.24
缶成型品(鉄)	90.46	83.84	78.62	72.08	91.68
古紙成型品(新聞)	536.65	557.85	486.80	477.52	98.09
古紙成型品(雑誌)	665.20	643.54	649.65	582.21	89.62
古紙成型品(ダンボール)	353.13	376.04	364.73	358.43	98.27
衣類	87.01	78.47	69.03	63.16	91.50
乾電池·蛍光灯	39.80	29.65	38.44	38.45	100.03
ガラス・せともの	293.47	322.41	309.33	277.66	89.76
生きびん	44.39	41.54	32.83	28.07	85.50
カレット(無色)	217.32	225.36	209.73	215.88	102.93
カレット(茶色)	275.12	267.55	255.07	262.14	102.77
カレット(その他)	109.08	114.04	111.99	107.99	96.43
小型家電(コード類)	10.50	7.65	10.84	8.99	82.93
小型家電(電子機器)	16.61	14.71	16.07	12.55	78.10

⇒ 色塗りの品目は売却収入のある品目



## (2)焼却灰搬出量

	R2総量(t)	R3総量(t)	R4総量(t)	R5総量見込(t)	R4年総量と の比較(%)		
主灰	1,401.59	1,396.44	1,348.32	1,359.06	100.80		
飛灰	917.07	1,011.82	917.47	902.49	98.37		

## 4 令和5年度の改良・修繕実績

		記
	4 月	・特記事項なし
	5 月	・(5/15~)1号炉定期整備:ボイラ、ストーカ
	6 月	・(6/1~6/17)1号炉定期整備:ボイラ、ストーカ
	7 月	・(7/29~7/31)一次破砕機回転刃先肉盛り溶接補修
	8 月	・(8/25~8/31)熱回収施設の全炉を停止し共通設備の定期整備
令和	9 月	・特記事項なし
5 年 度	10 月	・特記事項なし
及	11 月	・(11/1~11/26)2号炉定期整備:ボイラ、ストーカ ・(11/25~11/27)一次破砕機爪肉盛り補修
	12 月	<ul><li>特記事項なし</li></ul>
	1 月	・特記事項なし
	2 月	・(2/14) 貯湯槽水漏れ補修
	3 月	

## 5 令和5年度再生品の譲渡実績

## (1)再生品の無償譲渡について

「粗大ごみ」として搬入された家具類を、廃棄者の許可を得て再生品として提供している。 下表の件数のとおり再生及び無償譲渡を実施している。

年4回の再生品提供会を開催し、再生品は提供会2回に渡り抽選され、抽選漏れ品はその後2回の開催期間に渡り希望者に先着で譲渡される。最終的に希望者のない再生品は処分する。

(単位:件)

_		1			<u></u>		(単位:仵)
			再生	譲渡	処分	翌年度	実施内容
						持越し	
	平成28年	度計	140	107	5	28	
	平成29年	度計	202	185	6	39	
	平成30年	度計	269	270	3	35	
	令和元年	度計	247	258	1	23	
	令和2年	度計	161	152	2	30	
	令和3年	度計	114	121	5	18	
	第24回	4月					準備期間
	再生品提供	5月	42	5			抽選申込受付
		6月		7			抽選会・当選品引渡し
	第25回	7月		1			準備期間
麼	再生品提供	8月					抽選申込受付
开展		9月	45	37			抽選会・当選品引渡し
令和4年	第26回	10月		1	1		準備期間
光	再生品提供	11月	33	4			抽選申込受付
4 -		12月		41			抽選会・当選品引渡し
	第27回	1月		3			準備期間
	再生品提供	2月	40	2			抽選申込受付
		3月		31			抽選会・当選品引渡し
	年度	計	160	132	1	45	
	第28回	4月		1			準備期間
	再生品提供	5月	37				抽選申込受付
		6月		43			抽選会・当選品引渡し
	第29回	7月					準備期間
1 <del>77</del> 17	再生品提供	8月	29				抽選申込受付
令和5年度		9月		28	2		抽選会・当選品引渡し
154	第30回	10月			1	□ 再生旦(	・ の出展数が少ないため
一年	再生品提供	11月		1			再生品提供は中止
41-		12月				おうり回り	子工印徒供は中工
	第31回	1月			2		準備期間
	再生品提供	2月	40				抽選申込受付
		3月					抽選会・当選品引渡し
<u></u>	年度	計	106	73	5	73	
	合計		1399	1298	28	-	

## <u>資料②</u>

## 令和5年度

クリーンプラザよこて周辺環境調査結果

報告書

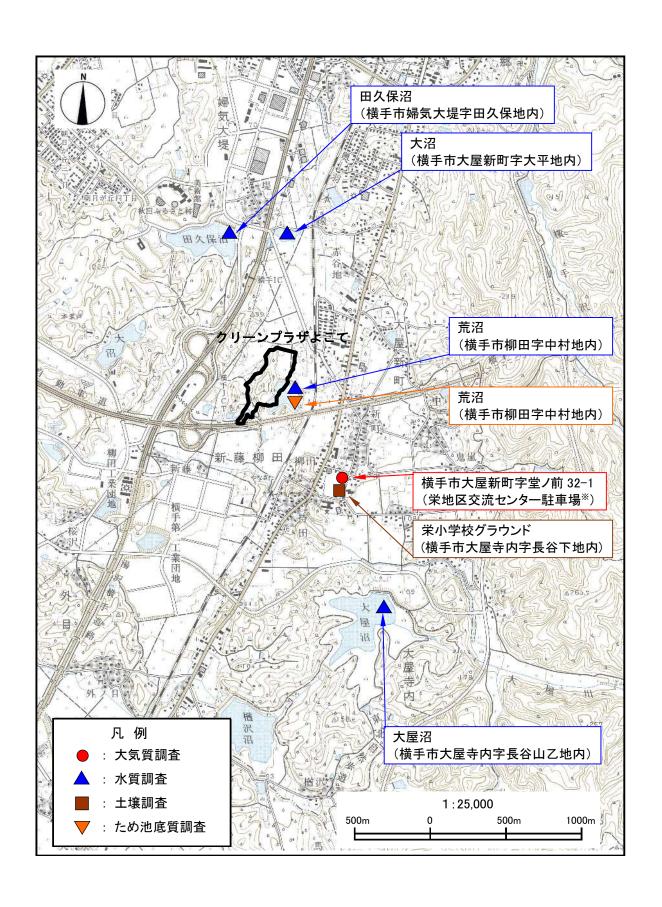
令和6年2月

## 1. 調査内容

令和5年度におけるクリーンプラザよこて(以降、「施設」という)周辺環境調査は、次のとおり大 気質、水質、土壌及びため池底質調査を実施しました。

調査種別	調査実施日	調査地点
大気質調査	令和5年	横手市大屋新町字堂ノ前 32-1
人又貝丽宜	11月23日~11月29日	(栄地区交流センター駐車場)
		大屋沼(横手市大屋寺内字長谷山乙地内)
人 水質調査	会和 5 住 8 目 99 日 -	荒沼(横手市柳田字中村地内)
小貝丽宜		大沼(横手市大屋新町字大平地内)
		田久保沼(横手市婦気大堤字田久保地内)
土壌調査	令和5年11月1日	栄小学校グラウンド(横手市大屋寺内字長谷下地内)
ため池底質調査	令和5年8月22日	荒沼(横手市柳田字中村地内)

	調査種別	調査項目	数	量	
	即可且1至刀1		地点数	検体数	
大気質調査	大 気 状 況 地 上 状 の れ の れ の れ の の の に の の の の の の の の の の の の の	二酸化硫黄(SO <sub>2</sub> ) 二酸化窒素(NO <sub>2</sub> ) 浮遊粒子状物質(SPM) 塩化水素(HCI) ダイオキシン類 風向・風速 気温 湿度	1	1	
水質	調査	生活環境基準7項目 ダイオキシン類	4	4	
土壌	調査	ダイオキシン類	1	1	
ためれ	也底質調査	ダイオキシン類 1			



## 2. 大気質の調査結果

## 【今年度調査結果】

今年度の調査結果は、全ての調査場所の全項目が環境基準値を満足していました。

	項目	期間	日平	均值	1 時	間値
誹	查内容	平均値	日最高	日最低	時間最高	時間最低
	二酸化硫黄(ppm)	0.001	0.001()	0.001	0.001()	0.001
	一酸化窒素(ppm)	0.002	0.003	0.001	0.010	0.001
大	二酸化窒素(ppm)	0.002	0.004())	0.001	0.014	0.001
気	窒素酸化物(ppm)	0.004	0.008	0.003	0.022	0.002
質	浮遊粒子状物質(mg/m³)	0.006	0.008(🔾)	0.005	0.033(🔾)	0.001
	塩化水素(ppm)	0.003	0.005()	<0.002	_	_
	ダイオキシン類(pg-TEQ/m³)	0.0039(○)	-	_	_	_
	気温(℃)	4. 4	9. 2	0.2	16. 3	-0.8
気	湿度(%)	92	97	85	99	59
象	風向(16方位)	N	_	_	_	_
	風速(m/s)	0. 7	1. 4	0.3	5. 6	0.0

注)( )内の○は環境基準値等以下を表す。



調査状況(栄地区交流センター駐車場)

## 【経年の調査結果】

平成23年度からの調査結果をみると、経年の調査結果に大きな変化はみられませんでした。

## 〔栄地区交流センター駐車場〕 施設稼働前

	調査場所			笫	や地区交流も	ニンター	(旧栄公民館	館)駐車	場		
	クリーンプラザよこて	稼働状況				稼働	動前				
		調査期間	〔冬季〕 平成23年		〔春季〕 平成23年		〔夏季〕 平成23年		〔秋季〕 平成23年		環境基準等
調査	項目		2/22~2	28	5/24~30		8/20~26				
	=\ 11 . \ \ 14	期間平均値	0.003		0.003		0.004		0.001		_
	二酸化硫黄 (ppm)	日平均値最高	0.005	(()	0.004	(()	0.005	(()	0.002	(()	0.04以下
	(ppiii)	1時間値最高	0.022	(()	0.009	(()	0.009	(()	0.004	(()	0.1以下
		期間平均値	0.009		0.002		0.002		0.004		_
	二酸化窒素 (ppm) 気	日平均値最高	0.016	(()	0.003	(()	0.004	(()	0.006	(()	0.04~0.06のゾーン内 又はそれ以下
		1時間値最高	0.044		0.006		0.011		0.018		_
質	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	期間平均値	0.017		0.010		0.010		0.013		_
, A		日平均値最高	0.022	$(\bigcirc)$	0.014	(()	0.018	(()	0.021	(()	0.10以下
		1時間値最高	0.066	$(\bigcirc)$	0.031	$(\bigcirc)$	0.049	(()	0.187	(()	0.20以下
	塩化水素	期間平均値	0.002未満		0.004		0.003		0.005		_
	(ppm)	日平均値最高	0.002未満	$(\bigcirc)$	0.008	(()	0.007	(()	0.011	$(\bigcirc)$	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	期間平均値	0.0054	(()	0.0063	(()	0.011	(()	0.026	(()	年平均值0.6以下
		期間平均値	1.5		16.8		23.0		17.2		
	気温(℃)	1時間値最高	13.5		26.2		30.4		26.8		_
		1時間値最低	-8.5		7.5		18.5		9.3		
気	気 湿度(%)	期間平均値	78		71		82		75		
		1時間値最高	94		96		96		94		_
1330		1時間値最低	42		28		35		31		
	風向 (16方位)	最多	南南東		東南東		東南東		東		_
	風速 (m/s)	期間平均値	1.2		2.0		1.5		1.3		_
	111/ D)	1時間値最高	4.7		6.6		4.7		3.3		

	調査場所			栄	地区交流セ	ンター	(旧栄公民館	()駐車	場		
	クリーンプラザよこて	稼働状況				稼働	動前				
	75 B	調査期間	[冬季] 平成24年		[冬季] 平成25年		[冬季] 平成26年		[冬季] 平成27年		環境基準等
調査	<b>坝</b> 日		12/14~	20	11/28~12/	4	11/27~1	12/3	11/25~	12/1	
	二酸化硫黄	期間平均値	0.000		0.000		0.000		0.000		_
		日平均値最高	0.001	$(\bigcirc)$	0.000	$(\bigcirc)$	0.000	(()	0.000	(()	0.04以下
	(ррш)	1時間値最高	0.002	$(\bigcirc)$	0.001	$(\bigcirc)$	0.001	(()	0.001	$(\bigcirc)$	0.1以下
		期間平均値	0.009		0.007		0.005		0.004		_
	二酸化窒素 (ppm)	日平均値最高	0.014	(()	0.011	(()	0.007	(()	0.005	(()	0.04~0.06のゾーン内 又はそれ以下
	大	1時間値最高	0.037		0.024		0.015		0.017		
質		期間平均値	0.013		0.009		0.005		0.005		
	(mg/m <sup>3</sup> )	日平均値最高	0.022	$(\bigcirc)$	0.019	$(\bigcirc)$	0.008	(()	0.008	$(\bigcirc)$	0.10以下
	(IIIg/III )	1時間値最高	0.051	$(\bigcirc)$	0.035	$(\bigcirc)$	0.028	(()	0.033	(()	0.20以下
	塩化水素	期間平均値	0.002未満		0.002未満		0.002未満		0.002		_
	(ppm)	日平均値最高	0.002未満	$(\bigcirc)$	0.002未満	$(\bigcirc)$	0.003	$(\bigcirc)$	0.006	(()	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	期間平均値	0.014	(()	0.011	(()	0.017	(()	0.0064	(()	年平均値0.6以下
		期間平均値	0.9		2.4		6.9		4.8		
	気温(℃)	1時間値最高	9.1		8.7		15.6		10.2		_
		1時間値最低	-4.2		-2.6		-0.5		0.6		
気		期間平均値	89		92		86		79		
象	湿度(%)	1時間値最高	96		99		95		95		_
		1時間値最低	74		56		55		57		
	風向 (16方位)	最多	北西		東南東		南東		北北西		=
	風速 (m/s)	期間平均値	1.1		1.3		1.7		1.4		_
	/2W/CE (111/ O/	1時間値最高	4.3		3.9		4.1		4.4		

注)( )内の○は環境基準値等以下、×は環境基準値等超過を表す。

## 〔栄地区交流センター駐車場〕 施設稼働後

	調査場所			第	や地区交流される	マンター	(旧栄公民館	館)駐車	場		
	クリーンプラザよこて	[稼働状況				稼働	動後				
		調査期間	〔冬季〕 平成28年		〔冬季〕 平成29年		〔冬季〕 平成30年		〔冬季〕 令和元年		環境基準等
調査	項目		11/24~1	1/30	11/23~1	1/29	11/28~	12/4	11/27~	12/3	
	一本人儿、大士	期間平均値	0.000		0.000		0.001		0.001		_
	二酸化硫黄 (ppm)	日平均値最高	0.000	(()	0.000	(()	0.001	(()	0.001	(()	0.04以下
	(ppin)	1時間値最高	0.001	(()	0.001	(()	0.003	(()	0.001	(()	0.1以下
		期間平均値	0.005		0.009		0.005		0.005		_
1.	二酸化窒素 (ppm)	日平均値最高	0.010	(()	0.017	(()	0.009	(()	0.008	(()	0.04~0.06のゾーン内 又はそれ以下
大気		1時間値最高	0.022		0.029		0.018		0.014		_
質	浮遊粒子状物質	期間平均値	0.008		0.008		0.013		0.005		_
	子姓松丁·从初員 (mg/m³)	日平均値最高	0.010	(()	0.015	(()	0.030	(()	0.010	(()	0.10以下
		1時間値最高	0.027	$(\bigcirc)$	0.032	$(\bigcirc)$	0.053	$(\bigcirc)$	0.030	(()	0.20以下
	塩化水素	期間平均値	0.002		0.003		0.008		0.002		_
	(ppm)	日平均值最高	0.004	(()	0.004	(()	0.013	(()	0.003	(()	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	期間平均値	0.025	(()	0.0068	(()	0.011	(()	0.016	(()	年平均值0.6以下
		期間平均値	2.3		1.0		5.5		2.3		
	気温(℃)	1時間値最高	8.5		8.2		18.2		10.9		_
		1時間値最低	-3.4		-7.5		-0.8		-2.9		
与	気 湿度(%)	期間平均値	84		90		82		86		
		1時間値最高	93	-	95		95		98		_
1		1時間値最低	59		64		52		61		
	風向 (16方位)	最多	南西		南東		北西		北北西		=
	風速 (m/s)	期間平均値	1.0		0.6		1.0		1.2		_
	/2A(ACE (111/ 3)	1時間値最高	4.2		3.6		5.8		5.1		

	調査場所	:		栄	や地区交流や	ニンター	(旧栄公民館	館)駐車	場		
	クリーンプラザよこて	稼働状況				稼働	動後				
		調査期間	[冬季] 令和2年		[冬季] 令和3年		〔冬季〕 令和4年		〔冬季〕 令和5年		環境基準等
調査	項目		11/26~1	2/2	11/25~	12/1	11/23~1	11/29	11/23~1	1/29	
	→ =4 /1 er+: ±±:	期間平均値	0.002		0.001		0.001		0.001		_
	二酸化硫黄 (ppm)	日平均値最高	0.002	(()	0.001	(()	0.001	(()	0.001	(O)	0.04以下
	(ppiii)	1時間値最高	0.002	(()	0.002	(()	0.001	(()	0.001	(O)	0.1以下
		期間平均値	0.003		0.003		0.004		0.002		_
4-	二酸化窒素 (ppm)	日平均値最高	0.004	(()	0.004	(()	0.006	(()	0.004	(O)	0.04~0.06のゾーン内 又はそれ以下
大気		1時間値最高	0.012		0.014		0.018		0.014		_
質		期間平均値	0.006		0.005		0.006		0.006		_
~	(mg/m <sup>3</sup> )	日平均值最高	0.009	(()	0.009	$(\bigcirc)$	0.008	(()	0.008	(O)	0.10以下
	(IIIg/III )	1時間値最高	0.021	$(\bigcirc)$	0.037	$(\bigcirc)$	0.031	(()	0.033	(O)	0.20以下
	塩化水素	期間平均値	0.002未満		0.002未満		0.003		0.003		_
	(ppm)	日平均値最高	0.004	$(\bigcirc)$	0.007	$(\bigcirc)$	0.007	(()	0.005	(O)	0.02以下
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	期間平均値	0.0047	(()	0.0058	(()	0.011	(()	0.0039	(O)	年平均值0.6以下
		期間平均値	3.8		5.4		8.7		4.4		
	気温(℃)	1時間値最高	10.6		16.8		19.3		16.3		_
		1時間値最低	0.0		0.4		0.0		-0.8		
気		期間平均値	84		86		77		92		
象	湿度 (%)	1時間値最高	97		98		98		99		_
350		1時間値最低	50		39		45		59		
	25 ALT + 1 1 1 1 1 1 1	最多	北西		南南東、南	i	南南東	-	北		_
		期間平均値	1.0		1.3		1.0		0.7		_
		1時間値最高	3.5		5.9		3.6		5.6		

注)( )内の〇は環境基準値等以下、×は環境基準値等超過を表す。

#### 3. 水質の調査結果

#### 【今年度調査結果】

生活環境の保全に関する項目(生活環境項目)については、以下の項目について環境基準を超過する結果がみられました。

人工湖における生活環境項目は、貯水量が 1,000 万立方メートル未満等の場合は環境 基準の適用対象外であるため、調査対象の4湖沼はいずれも環境基準は適用されません。

	調査項目		大屋沼	荒沼	大沼	田久保沼	環境基準	
	水素イオン濃度 pH	( - )	7.4 (〇)	8.9 (×)	9.4 (×)	8.2 (○)	6.5以上8.5以下	
生	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	4.1 (〇)	9.5 (×)	9.7 (×)	8.8 (×)	5以下	
活	浮遊物質量 SS	(mg/L)	1 (0)	6 (()	10 (()	12 (()	15以下	
環境	溶存酸素量 DO	( mg/L )	8.2 (○)	9.0 (()	9.9 (()	9.3 (○)	5以上	<b>※</b> 1
項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	2400	2400	1100	24000	_	
目	全窒素	( mg/L )	0.25 (○)	0.95 (○)	1.2 (×)	0.93 (○)	1以下	
	全燐	( mg/L )	0.010 (〇)	0.046 (〇)	0.11 (×)	0.086 (〇)	0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.041 (〇)	0.027 (〇)	0.23 (○)	0.21 (○)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(°C)	31.5	31.3	31.4	31.6	_	

注)()内の〇は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和 46 年 12 月 28 日 環境庁告示第 59 号)別表 2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖)における利用目的を「B類型・V類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

## 【環境基準超過項目】

・水素イオン濃度(pH)

環境基準を超過した湖沼:荒沼、大沼

超過理由: 富栄養化により、植物プランクトンが増殖し、光合成量が増えたことにより、二酸化炭素が消費され、アルカリ化したものと考えられる。

· 化学的酸素要求量(COD)

環境基準を超過した湖沼:荒沼、大沼、田久保沼

超過理由:外部からの有機物の流入や、経年的に底質に蓄積した有機物の溶出等によることが考えられる。

#### ・全窒素及び全燐

環境基準を超過した湖沼:大沼

超過理由:外部からの流入や経年的に底質に蓄積した化合物が溶出されたこと等によることが考えられる。



(大屋沼)



(荒沼)



(大沼)



(田久保沼)

## 【経年の調査結果】

#### [大屋沼]

大屋沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、施設稼働前の平成 27 年度夏季調査において、 化学的酸素要求量(COD)が環境基準を超過している他は、全て環境基準を満足しています。

また、各調査年度の水質濃度の推移に大きな変化はみられません。

	調査場所		I		大屋沼				
	クリーンプラザよこて移	<b>動</b> 状況			稼働前				
-10	明 查項目	調査日	[冬季] 平成24年 2月9日	[夏季] 平成24年 8月27日	[夏季] 平成25年 8月26日	[夏季] 平成26年 8月27日	[夏季] 平成27年 8月2	環境基準	
a/s	水素イオン濃度 pH	( - )	6.6 (0)	7.2 (0)	8.4 (0)	7.3 (○)	6.9 (		
生.	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	2.8 (○)	3.6 (○)	4.8 (○)	3.7 (○)	5.4 (		
活	浮游物質量 SS	( mg/L )	1未満(〇)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	9 (		
環	溶存酸素量 DO	( mg/L )	9.3 (())	8.6 (())	8.9 (())	9.3 (○)	8.0 (		<b>※</b> 1
境項	大腸菌群数	( MPN/100mL )	23	130	1300	1300	3300		/•(1
目	全窒素	( mg/L )	0.65 (○)	0.25 (○)	0.37 (○)	0.41 (○)	0.84 (	O) 1以下	
	全燐	( mg/L )	0.041 (○)	0.015 (○)	0.024 (○)	0.023 (○)	0.045 (	〇) 0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.063 (○)	0.052 (○)	0.055 (○)	0.049 (○)	0.13 (	O) 1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	-0.2	28.8	27.2	24.2	21.6	_	
	調査場所				大屋沼				
	クリーンプラザよこて移				稼働後	F	F		
		調査日	[夏季] 平成28年	[夏季] 平成29年	[夏季] 平成30年	[夏季] 令和元年	[夏季] 令和2年	環境基準	
訓	査項目		9月14日	8月24日	8月20日	8月21日	8月1	18日	
	水素イオン濃度 pH	( - )	7.5 (〇)	7.2 (○)	8.1 (())	7.3 (〇)	7.2 (	〇) 6.5以上8.5以下	
	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	4.3 (○)	3.8 (〇)	4.5 (○)	4.9 (〇)	3.2 (	O) 5以下	
活	浮遊物質量 SS	( mg/L )	1 (0)	1 (0)	2 (()	1 (0)	1未満(	〇) 15以下	
環境	溶存酸素量 DO	( mg/L )	9.3 (○)	8.5 (○)	9.1 (〇)	9.0 (〇)	8.9 (	O) 5以上	<b>※</b> 1
項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	170	4900	4900	3300	1300	_	
目	全窒素	( mg/L )	0.31 (〇)	0.35 (○)	0.27 (○)	0.29 (〇)	0.3 (	○) 1以下	
	全燐	( mg/L )	0.018 (〇)	0.015 (○)	0.012 (○)	0.015 (〇)	0.018 (	〇) 0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.043 (〇)	0.042 (○)	0.050 (○)	0.051 (〇)	0.045 (	○) 1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	23.9	26.4	27.0	30.5	28.8	_	
	調査場所			大屋沼					
-	クリーンプラザよこて移 	類状況 調査日	[夏季]	稼働後 [夏季]	[夏季]	環境基	油		
		神鱼口	令和3年	令和4年	令和5年	<b></b>	-t=		
訓	查項目		8月19日	8月22日	8月22日				
	水素イオン濃度 pH	( – )	7.9 (〇)	7.2 (〇)	7.4 (O)	6.5以上8.5以	下		
	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	3.7 (〇)	4.1 (○)	4.1 (O)	5以下			
活環	浮遊物質量 SS	( mg/L )	3 (○)	2 (〇)	1 (O)	15以下			
境	溶存酸素量 DO	( mg/L )	10 (○)	8.6 (○)	8.2 (O)	5以上	<b>※</b> 1		
項	大腸菌群数	( MPN/100mL )	790	1300	2400	_			
目	全窒素	( mg/L )	0.41 (〇)	0.28 (〇)	0.25 (〇)	1以下			

注)()内の○は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。 環境基準は下記のとおり。

(pg-TEQ/L

0.020 (〇)

※1 生活環境の保全に関する環境基準

全燐

- 水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日 環境庁告示第59号)別表2
- (2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖)における利用目的を「B類型・V類型農業用水」としての基準値
- ※2 ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

### [荒 沼]

荒沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、 生活環境項目は稼働前から全ての項目で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、 外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられます。

	調査場所		1						
	クリーンプラザよこて移	働状況			荒 沼 稼働前				
10	147517	調査日	[冬季] 平成24年	[夏季] 平成24年	[夏季] 平成25年	[夏季] 平成26年	[夏季] 平成27年	環境基準	
部	査項目 水素イオン濃度 pH	( - )	2月9日 6.3 (×)	8月27日 6.4 (×)	8月26日 7.4 (〇)	8月27日 7.5 (○)	8月26日 9.2 (×)	6.5以上8.5以下	П
生.	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	5.7 (×)	10 (×)	10 (×)	11 (×)	13 (×)	5以下	1
活	浮遊物質量 SS	( mg/L )	1未満(〇)	11 (0)	8 (0)	5 (0)	24 (×)	15以下	1
環	溶存酸素量 DO	( mg/L )	6.5 (())	4.8 (×)	8.8 (○)	10 (0)	10 (0)	5以上	*1
境項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	33	1300	2400	7900	7000	_	7
目	全窒素	( mg/L )	0.90 (○)	0.78 (○)	0.74 (())	1.0 (())	2.0 (×)	1以下	1
	全燐	( mg/L )	0.032 (○)	0.062 (○)	0.050 (○)	0.070 (○)	0.11 (×)	0.1以下	1
F	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.10 (○)	0.054 (○)	0.051 (○)	0.049 (○)	0.064 (○)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	-0.3	32.0	28.5	26.0	23.1	_	
H	調査場所				荒沼		!	1	
	クリーンプラザよこて移	<b>建働</b> 状況			稼働後			]	
an	1 desert to	調査日	[夏季] 平成28年	[夏季] 平成29年	[夏季] 平成30年	[夏季] 令和元年	[夏季] 令和2年	環境基準	
部	査項目 水素イオン濃度 pH	( - )	9月14日 9.0 (×)	8月24日 7.1 (○)	8月20日	8月21日 7.0 (○)	8月18日 7.4 (○)	6.5以上8.5以下	
生.	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	9.0 (×)	6.9 (×)	7.8 (×)	7.9 (×)	5.1 (×)	5以下	
生活	浮游物質量 SS	( mg/L )	22 (×)	4 (0)	5 (0)	4 (0)	1未満(〇)	15以下	
環	溶存酸素量 DO	( mg/L )	12 (0)	8.8 (○)	8.3 (0)	9.3 (○)	9.4 (())	5以上	<b>*</b> 1
境項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	13000	3300	790	1700	7900	_	1
自	全窒素	(mg/L)	2.8 (×)	0.52 (○)	0.58 (○)	0.59 (○)	0.33 (○)	1以下	1
	全燐	( mg/L )	0.16 (×)	0.025 (○)	0.040 (○)	0.039 (○)	0.035 (○)	0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.095 (○)	0.041 (○)	0.045 (○)	0.049 (〇)	0.045 (○)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	24.0	27.0	25.5	29.5	29.5	_	
	調査場所			荒沼					
	クリーンプラザよこて稼			稼働後	F	arm take data			
=0	香項目	調査日	[夏季] 令和3年 8月19日	[夏季] 令和4年 8月22日	[夏季] 令和5年 8月22日	環境基	华		
ū/F	水素イオン濃度 pH	( - )	8.0 (○)	7.3 (○)	8.9 (×)	6.5以上8.5以	下		
生	化学的酸素要求量 COD	(mg/L)	7.7 (×)	6.0 (×)	9.5 (×)	5以下	<del>`</del>		
活	浮遊物質量 SS	(mg/L)	11 (0)	3 (○)	6 (O)	15以下			
環	溶存酸素量 DO	(mg/L)	10 (○)	10 (○)	9.0 (O)	5以上	<b>%</b> 1		
境項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	170	2400	2400	_			
目	全窒素	(mg/L)	0.89 (○)	0.50 (〇)	0.95 (〇)	1以下			
L	全燐	(mg/L)	0.025 (○)	0.035 (○)	0.046 (〇)	0.1以下			
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.048 (○)	0.044 (〇)	0.027 (O)	1以下	<b>※</b> 2		
	水温	(℃)	27.3	31.5	31.3	_			

注)()内の〇は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。

環境基準は下記のとおり。

※1 生活環境の保全に関する環境基準

水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日 環境庁告示第59号)別表2

(2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が1,000万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工 湖)における利用目的を「B 類型·V類型 農業用水」としての基準値

※2 ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準に ついて(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

#### [大 沼]

大沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、 生活環境項目は水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質量(SS)、全窒素及び全燐で 環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられる。

	調査場所				大 沼				
L	クリーンプラザよこて移		5 to 45 1	reserva	稼働前	Cast of 2	Francisco.		
		調査日	[冬季] 平成24年	[夏季] 平成24年	[夏季] 平成25年	[夏季] 平成26年	[夏季] 平成27年	環境基準	
1	間査項目		2月9日	8月27日		8月27日			
Г	水素イオン濃度 pH	( - )	6.9 (○)	7.2 (〇)	8.5 (○)	7.8 (○)	7.7 (○)	6.5以上8.5以下	
生	化学的酸素要求量 COD	(mg/L)	3.6 (〇)	7.8 (×)	7.4 (×)	8.0 (×)	6.8 (×)	5以下	1
活		(mg/L)	4 (○)	13 (○)	11 (0)	11 (0)	13 (○)	15以下	1
環境		(mg/L)	12 (○)	8.3 (○)	10 (〇)	11 (0)	10 (○)	5以上	<b>※</b> 1
項		(MPN/100mL)	3300	7900	4900	7900	24000	_	
目	全窒素	( mg/L )	1.3 (×)	0.68 (〇)	0.82 (○)	0.96 (〇)	1.3 (×)	1以下	
	全燐	(mg/L)	0.049 (〇)	0.088 (〇)	0.080 (○)	0.10 (〇)	0.078 (〇)	0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.065 (〇)	0.18 (〇)	0.077 (〇)	0.13 (〇)	0.16 (〇)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	0.0	31.5	27.0	22.8	20.2	_	
	調査場所			•	大沼				
L	クリーンプラザよこて移		Cart et al	Fact of A	稼働後	Contract of	(TEX.)		
		調査日	[夏季] 平成28年	[夏季] 平成29年	[夏季] 平成30年	[夏季] 令和元年	[夏季] 令和2年	環境基準	
1	間査項目		9月14日	8月24日	8月20日	8月21日	8月18日		
Г	水素イオン濃度 pH	( - )	9.1 (×)	6.9 (○)	9.3 (×)	7.8 (〇)	7.1 (〇)	6.5以上8.5以下	
生	化学的酸素要求量 COD	(mg/L)	7.9 (×)	8.4 (×)	8.7 (×)	5.8 (×)	5.0 (〇)	5以下	
活		( mg/L )	20 (×)	23 (×)	13 (〇)	9 (🔾)	12 (○)	15以下	
環境		( mg/L )	11 (0)	7.6 (〇)	12 (()	11 (()	10 (〇)	5以上	₩1
項		(MPN/100mL)	490	35000	7900	7900	13000		
目	全窒素	( mg/L )	1.0 (○)	1.1 (×)	1.4 (×)	1.0 (〇)	1.1 (×)	1以下	
L	全燐	( mg/L )	0.092 (〇)	0.11 (×)	0.062 (○)	0.068 (〇)	0.054 (〇)	0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.20 (〇)	0.34 (〇)	0.077 (〇)	0.12 (〇)	0.30 (〇)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	24.1	26.4	25.5	28.5	27.0	_	
	調査場所			大沼					
L	クリーンプラザよこて移		Cart of 3	稼働後	(7.5)				
		調査日	[夏季] 令和3年	[夏季] 令和4年	[夏季] 令和5年	環境基	:準		
Ī	周査項目 一		8月19日	8月22日	8月22日				
	水素イオン濃度 pH	( - )	7.8 (〇)	8.5 (○)	9.4 (×)	6.5以上8.5以	下		
生	化学的酸素要求量 COD	( mg/L )	5.7 (〇)	6.2 (○)	9.7 (×)	5以下			
活		( mg/L )	17 (×)	9 (🔾)	10 (O)	15以下			
環境		( mg/L )	11 (0)	10 (()	9.9 (〇)	5以上	<b>%</b> 1		
項	A compact of the contract of t	(MPN/100mL)	3300	2200	1100	_			
目	全窒素	( mg/L )	1.0 (○)	1.2 (×)	1.2 (×)	1以下			
L	全燐	( $mg/L$ )	0.043 (○)	0.053 (○)	0.11 (×)	0.1以下			
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.30 (○)	0.15 (〇)	0.23 (O)	1以下	<b>※</b> 2		
	水温	(℃)	27.2	31.2	31.4	_			

- 注)()内の〇は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。 環境基準は下記のとおり。
  - ※1 生活環境の保全に関する環境基準
    - 水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日 環境庁告示第59号)別表2
    - (2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖)における利用目的を「B類型・V類型農業用水」としての基準値
  - ※2 ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

#### [田久保沼]

田久保沼における平成 23 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は環境基準を満足しているものの、生活環境項目は水素イオン濃度(pH)、化学的酸素要求量(COD)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)及び全窒素で環境基準を超過する傾向がみられます。

また、各調査年度の水質濃度の推移をみると、施設稼働前後ともに変化が大きくなっています。これは、外部からの水の流入、底質に蓄積した有機物の溶出、植物プランクトンの増加等による影響と考えられます。

	調査場所									
	クリーンプラザよこて移	<b>動</b> 状況			稼働前					
		調査日	[冬季] 平成24年	[夏季] 平成24年	[夏季] 平成25年	[夏季] 平成26年	[夏季] 平成27年		環境基準	
訓	查項目		2月9日	8月27日	8月26日	8月27日	8月	26日		
	水素イオン濃度 pH	( - )	6.2 (×)	6.9 (〇)	7.4 (〇)	7.1 (○)	8.0 (	(0)	6.5以上8.5以下	
生	化学的酸素要求量 COD	( $mg/L$ )	3.0 (〇)	7.1 (×)	7.7 (×)	6.8 (×)	9.1 (	(×)	5以下	
活	浮遊物質量 SS	( $mg/L$ )	4 (0)	13 (〇)	18 (×)	12 (〇)	41 (	(×)	15以下	
環境	溶存酸素量 DO	( $mg/L$ )	5.1 (〇)	5.0 (〇)	8.2 (○)	7.3 (〇)	9.2 (	(0)	5以上	₩1
項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	7.8	4900	13000	13000	92000		_	
目	全窒素	( $mg/L$ )	0.88 (○)	0.58 (〇)	0.53 (〇)	0.88 (○)	1.1 (	(×)	1以下	
	全燐	( mg/L )	0.022 (○)	0.069 (〇)	0.061 (〇)	0.069 (○)	0.079 (	(0)	0.1以下	
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.18 (〇)	0.21 (〇)	0.096 (〇)	0.20 (〇)	0.18 (	(0)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	0.0	32.5	29.0	24.7	22.0		_	
	調査場所				田久保沼					
	クリーンプラザよこて移	働状況			稼働後					
		調査日	[夏季]	[夏季]	[夏季]	[夏季]	[夏季]		環境基準	
#8	査項目		平成28年 9月14日	平成29年 8月24日	平成30年 8月20日	令和元年 8月21日	令和2年	18日		
Д/г	水素イオン濃度 pH	( - )	6.7 (0)	7.1 (0)	7.2 (○)	7.0 (○)	6.9 (	_	6.5以上8.5以下	T
生	化学的酸素要求量 COD	(mg/L)	6.9 (×)	6.4 (×)	5.5 (×)	6.5 (×)	5.6 (	-	5以下	1
活	浮遊物質量 SS	(mg/L)	7 (0)	25 (×)	9 (())	5 (())	7 (		15以下	1
環境	溶存酸素量 DO	( mg/L )	4.0 (×)	8.4 (()	8.5 (○)	8.5 (○)	8.5 (	(0)	5以上	<b>※</b> 1
現項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	4900	92000	4900	2400	13000		_	1
目	全窒素	( mg/L )	0.41 (〇)	0.71 (〇)	0.55 (〇)	0.64 (〇)	0.66 (	(O)	1以下	1
	全燐	( mg/L )	0.023 (○)	0.06 (〇)	0.023 (○)	0.031 (〇)	0.036 (	(O)	0.1以下	1
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.079 (○)	0.19 (〇)	0.062 (○)	0.12 (〇)	0.10 (	(0)	1以下	<b>※</b> 2
	水温	(℃)	24.7	27.2	28.0	31.5	29.0		_	
F	調査場所			田久保沼						
	クリーンプラザよこて移	<b>(働</b> 状況		稼働後						
		調査日	[夏季]	[夏季]	[夏季]	環境基準				
#8	査項目		令和3年 8月19日	令和4年 8月22日	令和5年 8月22日					
Д/	水素イオン濃度 pH	( - )	7.9 (())	7.1 (0)	8.2 (O)	6.5以上8.5以	下			
生	化学的酸素要求量 COD	(mg/L)	6.8 (×)	7.1 (×)	8.8 (×)	5以下				
活	浮遊物質量 SS	( mg/L )	22 (×)	3 (○)	12 (O)	15以下				
環	溶存酸素量 DO	( mg/L )	11 (0)	11 (0)	9.3 (O)	5以上	*1			
境項	大腸菌群数	(MPN/100mL)	3300	3300	24000	_				
目	全窒素	( mg/L )	0.80 (○)	0.47 (〇)	0.93 (O)	1以下	<del>-</del>			
	全燐	( mg/L )	0.040 (○)	0.045 (○)	0.086 (O)	0.1以下				
	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.22 (○)	0.051 (○)	0.21 (O)	1以下	<b>※</b> 2			
	水温	(℃)	32.0	31.2	31.6	_				

- 注)()内の〇は環境基準値以下、×は環境基準値超過を表す。
  - 環境基準は下記のとおり。
  - ※1 生活環境の保全に関する環境基準
    - 水質汚濁に係る環境基準について(昭和46年12月28日 環境庁告示第59号)別表2
    - (2)湖沼(天然湖沼及び貯水量が1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が4日間以上である人工湖)における利用目的を「B類型・V類型 農業用水」としての基準値
  - ※2 ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

## 4. 土壌の調査結果

## 【今年度調査結果】

今年度の調査結果は、環境基準を満足していました。

採取年月日:令和5年11月1日

計量項目	栄小学校グラウンド	環境基準
ダイオキシン類 (pg-TEG/L)	0.59	1,000 以下*

※ ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に 係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)



全景(栄小学校グラウンド)



採取状況

## 【経年の調査結果】

平成23年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は、環境基準を満足する低濃度で推移しています。

#### 〔栄小学校グラウンド〕

٦.		-							
	クリーンプラザ』	よこて稼働状況		稼働前					
		調査日		[秋期] 平成24年	[秋期] 平成25年	[秋期] 平成26年	[秋期] 平成27年	環境基準	
	調査項目		2月10日	11月7日	11月6日	11月6日	11月5日		
	ダイオキシン類	( pg-TEQ/g )	0. 51	0.39	0.15	0. 29	0.47	1,000以下**	

クリーンプラザよこて	て稼働状況		稼働後					
調査項目	調査日		[秋期] 平成29年 11月6日	[秋期] 平成30年 11月6日	[秋期] 令和元年 11月6日	[秋期] 令和2年 11月5日	環境基準	
	_	11/11	11//10 [	11//101	11/10 [			
ダイオキシン類 ()	pg-TEQ/g )	0.56	0.58	0.47	0. 23	0.42	1,000以下**	

クリーンプラザよ	こて稼働状況				
調査項目	調査日		[秋期] 令和4年 11月9日	[秋期] 令和5年 11月1日	環境基準
ダイオキシン類	( pg-TEQ/g )	0. 15	0.67	0. 59	1,000以下**

<sup>※</sup> ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に 係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

## 5. ため池底質の調査結果

今年度の調査結果は、流入側、流出側ともに、環境基準を満足していました。

## 【今年度調査結果】

採取年月日:令和5年8月22日

計量項目	荒沼(流入側)	荒沼(流出側)	基準値
ダイオキシン類(pg-TEG/L)	12	6.7	150 以下**

<sup>※</sup> ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る 環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)



採取状況(荒沼(流入側))



採取状況(荒沼(流出側))

## 【経年の調査結果】

平成 24 年度からの調査結果をみると、ダイオキシン類は、流入側及び流出側ともに環境基準を満足する 低濃度で推移しています。

## 〔流入側〕

	調査場所		荒沼(流入側)					
クリーン	クリーンプラザよこて稼働状況 稼働前							
	M-47-TF-1-1	[夏季] 平成24年	[夏季] 平成25年	[夏季] 平成26年	[夏季] 平成27年	環境基準		
調査項目		8月27日	8月26日	8月27日	8月26日			
ダイオキシン	類 (pg-TEQ/g)	26	16	21	13	150以下**		

	調査場所	ŕ		荒沼(?	<b></b> (九人)			
クリーンプラザよこて稼働状況				稼働後				
		調査日	[夏季] 平成28年	[夏季] 平成29年	[夏季] 平成30年	[夏季] 令和元年	環境基準	
	調査項目		9月14日	9月14日	8月20日	8月21日		
ĺ	ダイオキシン類	(pg-TEQ/g)	15	12	13	19	150以下**	

調査場所		荒沼(流入側)				
クリーンプラザよこで	て稼働状況		稼働後			
	調査日	[夏季] 令和2年	[夏季] 令和3年	[夏季] 令和4年	[夏季] 令和5年	環境基準
調査項目		8月18日	8月19日	8月22日	8月22日	
ダイオキシン類	(pg-TEQ/g)	11	17	12	12	150以下**

<sup>※</sup> ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

## 〔流出側〕

調査場所						
クリーンプラザよこ	クリーンプラザよこて稼働状況 稼働前					
	H/13	[夏季] 平成24年	[夏季] 平成25年	[夏季] 平成26年	[夏季] 平成27年	環境基準
調査項目		8月27日	8月26日	8月27日	8月26日	
ダイオキシン類	(pg-TEQ/g)	18	21	7.9	3.0	150以下**
				Lead a fee D		

調査場所		荒沼(流出側)					
クリーンプラザよこで		稼働後					
	HAJ III.	[夏季] 平成28年	[夏季] 平成29年	[夏季] 平成30年	[夏季] 令和元年	環境基準	
調査項目		9月14日	9月14日	8月20日	8月21日		
ダイオキシン類	(pg-TEQ/g)	17	1.7	0.72	0.64	150以下**	

調査場所		荒沼(流出側)					
クリーンプラザよこつ	て稼働状況		稼働後				
	調査日	[夏季]	[夏季]	[夏季]	[夏季]	環境基準	
	_	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年		
調査項目		8月18日	8月19日	8月22日	8月22日		
ダイオキシン類	(pg-TEQ/g)	18	2.8	4.0	6.7	150以下**	

<sup>※</sup> ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準 について(平成11年12月27日 環境庁告示第68号)

## ペット・プラ処理施設整備について

これまで、ペットボトルとプラスチック製容器包装類の中間処理施設として、運営しておりました「ペットボトル等処理センター」は、1月末をもってその役目を終了し、2月から、クリーンプラザよこて地内に整備した施設に圧縮梱包機械1台を移設し、仮設処理施設として運営しております。

今年度の移設事業計画は順調に推移し、現在は従事していた職員がそのまま移り、 作業を行っているところです。

◆ペット・プラ処理施設ストックヤード及び車庫(仮設処理期間~R9.3.31予定) ①ストックヤードと車庫の外観



②車庫内部



③ストックヤード内部



ストックヤードには収集したペットボトルとプラスチック製容器包装類を一時保 管し、車庫に設置した圧縮梱包機に流しながら作業しています。

## ◆今後の事業計画

令和4年の新プラ法が施行されたことにより、新たに整備するペットボトル及び製品プラスチックの中間処理施設整備については、令和9年度の稼働を目指し、以下の事業計画で進める予定です。

## 令和6年度 「ペット・プラ処理施設整備工事 実施設計」

R7~R8 を工事期間とするペット・プラ処理施設の実施設計業務を 行う

## 令和7年度 「ペット・プラ処理施設整備工事 (1年目)」

クリーンプラザよこて敷地内(雪室及び洗車棟の間)に新たなペット・プラ処理施設を建設する。

建設期間は2ヶ年(令和7年~令和8年)を計画している。 発注は令和7年7月頃を予定

## 令和8年度 「ペット・プラ処理施設整備工事 (2年目)」

ペット・プラ処理棟建屋の建設を継続、発注機械の搬入設置、試験運転後、令和9年度からの稼働を目指す。

なお、令和9年度以降のペット・プラ処理施設の施設運営は、現在、熱回収施設と リサイクルセンターの施設管理を委託している「荏原環境プラント株式会社」へお願 いすることも検討しておりますが、現段階では「横手市(生活環境課)」が直接運営す る予定となっています。